

HERITAGE AUDIO HA-81A EQ

209,000 円

1073系の音色と1081方式EQを兼備するチャンネル・ストリップ

Overview

NEVE 1073系統のサウンドとNEVE 1081方式のEQセクションを両立したチャンネル・ストリップ。最大80dBのゲインを誇るオール・ディスクリートのクラスA設計を採用したプリアンプに加え、4バンドEQにハイパス／ローパス・フィルタを追加した強力なEQセクションを備える。インピーダンスの切り替えにより、低ゲインのリボン・マイクにも対応するほか、出力トリム、-20dB PAD、位相反転スイッチ、+48Vファンタム電源を装備する。

製品詳細はこちら



①フロント・パネル。左側には、高インピーダンス仕様のクラスA JFET DI入力を配置。その横には+48Vファンタム電源、-20dB PAD、ライン切り替え、マイク入力インピーダンス切り替え(1200Ω/300Ω)といったスイッチが集約されている。赤色のノブは、入力レベルを30～80dBの範囲から5dBステップで調整可能。続くEQセクションは、各バンド±15dBのブースト／カットが可能な4バンド構成。ハイシェルフとローシェルフは選択した周波数に対してシェルフとベルの形状を切り替え可能で、ハイミッドとローミッドにはそれぞれ鋭い帯域幅を作り出す“HI Q”ボタンが備わっている。その右は18dB/octのハイパス・フィルタとローパス・フィルタが青い同軸ノブにまとまっている。右端には出力レベルのコントロール・ノブ、EQL(EQのオン／オフ)、位相反転、電源スイッチが並ぶ

②リア・パネル。一番左には、付属の専用外部電源ユニット“HA-PSU04”を接続するDC入力端子を装備。その右には、ライン出力(XLR)、ライン入力(XLR)、マイク入力(XLR)が配置されている

【Spec】

●マイク入力インピーダンス:1,200Ω(HI)、300Ω(LO) ●ライン入力インピーダンス:10kΩ ●出力インピーダンス:75Ω未満
●周波数特性:20Hz(+0.3dB)～20kHz(-0.2dB) ●外形寸法:482(W)×44(H)×184(D)mm

●問合せ:フックアップ www.hookup.co.jp

Reviewed by 諏訪桂輔

【Profile】

PLANETKINGDOM、studioMSRを経て、現在フリーランスのレコーディング・エンジニアとして活動。ポップスからバンド・サウンド、ネット・アーティスト、劇伴など幅広いジャンルの音楽を手掛ける。

状態の良い1073とほぼ同等の音

HERITAGE AUDIOのHA-81A EQをレビューさせていただきます。メーカー名は以前から存じ上げていましたが、実際に触れるのは初めてなのでとても楽しみです。

“HA-81A EQ”という名前からしてNEVEの1081サウンドを思い浮かべる方も多いと思いますが、本機はサウンドの質感が1073、EQ部分が1081を踏襲したモデルになります。1073と1081のサウンドの違いについて、個人的なイメージとしては、1073は“低域から高域まで広く心地良いサウンド”、1081は“中域の存在感があり、タイトでパンチがあるサウンド”という印象です。基本的には、録音の際は1073のサウンドのほうが好みなのですが、EQポイントの使い勝手は1081のほうが良く、それぞれの強みを両立した本機の登場は、私にとっ

てはまさに願ったり叶ったりでした。

1Uサイズながら奥行きは184mmと短く、電源に外部ACアダプターを採用しているため、排熱などの問題もクリアしてこのサイズ感を実現しています。CARNHILL製のトランスが入出力の両方に使用されており、筐体はずっしりと重たいです。フロント・パネルの質感やノブの色味なども本物のNEVEに近く、“今、本物を目の前にしているのではないか”という錯覚さえ覚えます。

肝心のサウンドですが、状態の良い1073とほぼ同等だと感じました。私がアシスタント時代、よくボーカルのマイク・テストでブースに入っていたのですが、当時のエンジニアの方が“修理用パーツで組んだ新品の1073”を使っており、その音にひどく感動したおぼえがあります。本機のサウンドは、まさに当時の感覚をほうふつさせるものでした。この価格でこま

でのチューニングがされているのには純粋に驚かされます。

EQによる積極的な音作りが可能

マイク・プリアンプ(HA)のゲインが30dBスタートと若干高めですが、独特の質感を得るためにはこれくらい高いほうが良く、もしレベルが大きすぎる場合はアウトプット・トリムで調整するをお勧めします。EQセクションは言わずもがなの素晴らしいで、ローカットを27Hzから選べるため、積極的に使っていきたいポイントです。EQの効き方もハードウェアならではの心地良さなので、“録音段階でもう少し抜けを良くしたい”“もう少し太くしたい”と感じたら、臆することなく使っていくのが良いと思います。フロントにはDI入力もあるので、宅録環境をさらにパワーアップしたいと考えているユーザーにもお勧めしたい一台です。